

論文の和文要旨

論文題目 社会的相互行為過程としての在日留学生の異文化適応（学習・発達）—社会文化的アプローチの視座から—

氏名 陳 錫金（チェン シキン）

まず第1章では、日本社会を取りまく環境の変化に伴い、異文化と共生することがますます必要となってきたこと、そうした国際環境の中で、日本に在留する外国人、とりわけ日本の教育システム内で学業達成を目的課題とする留学生の数は年々増加の一途を辿っていること、また異なる価値観をもつ留学生の急増による教育方針の転換や社会・学校文化への影響について触れた。そして、留学生の受け入れに関する歴史的概略と研究経緯の概観を踏まえて、留学生の異文化適応問題が注目の的となっていること、ならびにこれまで行われてきた在日留学生の異文化適応研究を時期ごとに明らかにした。さらに、異文化接触と社会文化の関わりを紐解くことを通して、留学生が直面する異文化適応問題の特異性と異文化適応において重視される側面、ソーシャル・ネットワーク（SN）とソーシャル・スキル（SS）という2つ本研究で扱われる重要な文化的

道具（媒体）の存在について論じた。

第2章は先行研究のレビューに基づく問題点や示唆の提示と目的設定の章として位置づけ、具体的には、まず、文化人類学、社会学や心理学などの各研究領域における異文化接触・適応研究、およびそれらの研究によって導き出された理論的モデルについて概観した。次いで、対象を留学生に絞り、海外の研究に続く、日本での研究をまとめた。そして、第1章で吟味されたソーシャル・ネットワーク（SN）とソーシャル・スキル（SS）に関する研究をレビューした。これらの作業を通して、本研究遂行のための示唆を拾い上げつつ、これまでの異文化適応研究に不足な点や問題点を提起してみた。最後に、本研究の目的および構成について述べた。

第3章では、前章の先行研究の概観において明らかにされた問題意識や示唆を踏まえた上で、まず、本研究で扱われる「異文化」と「異文化適応」の定義の再概念化を試みた。その結果、「異文化」とは、多声性に基礎をおく対話的機能を引き出すさまざまな形態の「他者性」（Bakhtin, 1979）であることと、「異文化適応」とは、相手の文化的枠組みにあてはまるのではなく、声と声の間のダイナミズムという対話的機能（Bakhtin, 1981）によって、社会環境への参入の仕方の変化や新しい意味空間の創造を目指すものであることが示唆された。そして、本研究で用いられるメタ理論である、社会文化的アプローチの異文化適応研究における位置づけについて吟味した。その結果、留学生の異文化適応をとらえるための社会文化的アプローチのもつ視点の特徴、研究遂行上における記述や解釈のための分析単位や、社会文化的相互行為過程における学習の習得的側面と専有的側面の関係などの点が明らかとなった。最後に、社会文化的相互行為としての異文化適応の本質、異文化

適応にかかわる社会文化的相互行為過程分析の必須性，社会文化的相互行為としての異文化適応過程における媒介手段の存在という三つの側面から，社会的相互行為過程としての留学生の異文化適応をとらえる視点を吟味するとともに，在日留学生の異文化適応における社会文化的アプローチの有効性必須性が改めて示唆された。

第4章では，第2章で吟味されたソーシャル・ネットワーク（SN）やソーシャル・スキル（SS）と留学生の異文化適応との関連が質問紙調査によって横断的に検討された。その結果，留学生のもつソーシャル・ネットワーク（SN）やソーシャル・スキル（SS）に対する個人のデモグラフィック要因の影響は限定的で，それらの獲得は，実際の留学生自身のニーズと環境側の状況との相互行為の産物であること，また，留学生の異文化適応実態も個人のもつ特徴と環境側の働きかけとの相互作用の結果として現れるものであることが示唆された。そして，ソーシャル・ネットワーク（SN）やソーシャル・スキル（SS）と，異文化適応との関連を検討したところ，「ソーシャル・ネットワーク（SN）やソーシャル・スキル（SS）の存在は，在日留学生の異文化適応にポジティブに関わっている」という目的仮説が検証されたが，異文化適応のタイプはソーシャル・ネットワーク（SN）やソーシャル・スキル（SS）の異なった変数によって説明され，影響要因の分化が見出された。言い換えれば，異文化適応は一義に良し悪しと決めつけてはならず，個人側の要因と環境側の要因とのダイナミックな相互作用的關係次第で，今まで不適応ととらえられてきた現象や傾向が適応ととらえなおされる可能性を秘めていることが示唆された。さらに，適応とソーシャル・ネットワーク（SN）の関連について客観的な評価を下すために，留学生と日本人学生の比較分析を行った。その結果，ソーシャル・ネットワーク（SN）

は異文化適応に促進的な効果をもつことは、両者において共通にみられた。また、異文化性に起因する留学生の特有な適応問題が存在する一方、日本人学生とは多くの共通点も認められたことから、適応のあり方は個人の属性要因や、文化背景の違いによって特殊性はあるものの、基本的にはそれらの条件の違いを超えた形の、個人と環境との社会的相互行為過程の中に適応の本質があるという適応の基本的なメカニズムが示唆された。

第5章では、まず、短期的発生過程における異文化適応の変容について、時間的変化や個人のデモグラフィック要因との関係で縦断的な分析が行われた。その結果、異文化適応は時間的推移に影響されるだけでなく、個人の文化的背景である生育環境、語学力や滞日年数という異文化性にかかわる要因によって、差が生じるとの示唆が得られた。また、時間的要因と個人の属性要因を組み合わせる上で、異文化適応との関連について分析を行った。その結果、調査時期と出身地域別、調査時期と日本語能力別や調査時期と滞在期間別によって、異なる領域の適応パターンが異なる。つまり、個人側の要因と周囲環境側の要因とのダイナミックな相互行為のあり方によって、適応のあり方が変わってくることで、また、異文化適応は時間的変化を伴う過程であるがゆえに、個人の異文化適応を一時点や一側面から判断するのではなく、発生的にとらえるべきであることが示唆された。そして、質問紙調査で見出された客観的な適応評価結果は留学生の自身の適応に対する意識とは一致するのだろうか。面接調査の結果は、両者の間に大きなギャップがあること、すなわち、質問紙調査の結果の如何にかかわらず、留学生自身の適応観がよりポジティブにとらえられていることが明らかとなり、また常に相手の枠組みに一方的にはめ込むのではなく、個人の持つ生得的な要因に加えて、

行動の内容や、その時々状況までも考慮し使い分けるのがベストとすることが明らかとなった。さらに、質問紙調査による量的結果と面調査による質的結果の相違点は何を示唆しているのかについて吟味を行った。その結果、認知の不一致は、適応（学習・発達）の本質を支える重要な道具であること、そして、留学生の異文化適応にかかわる具体的な経験が生起する社会文化的相互行為過程そのもののあり方を分析する必要があること、さらに、異文化適応研究は単一の方法に頼るのは不十分であり、必ず複数の研究アプローチで方法間の差異や矛盾を検討すべきであることが示唆された。

第5章において量的データと質的データの違いから得られた示唆から、第6章では、留学生が実際活動するさまざまな社会文脈の中で異文化適応の社会文化的性質について検討した。具体的には、複数の社会的場面における文化的道具、とりわけ、フォーマル言語（敬体表現中心の改まったことば遣い）とインフォーマル言語（常体表現中心の友達ことば的なことば遣い）を場面に応じて使い分けるといった、「ことばの使い分け（スタイル・スイッチング）」という基礎的な媒介手段が他者との社会的相互行為の達成に寄与することが示唆された。そして、「ことばの使い分け」という文化的道具を媒介として、家庭、学校、近隣、職場と複数のメゾシステム・レベル（Bronfenbrenner, 1977）における独自の文化的道具、すなわち、他者との共通認識形成のための話し合い、場面に応じたことば遣いの取り込みという腹話現象、コミュニケーション行為におけるあいさつなどを獲得し、自己行動のナビゲーターとして自己行動を制御することが示唆された。さらに、他者との社会的相互行為過程の中で、文化的道具を自己活動の指針として取り込むという習得的学習と、文化的道具を徐々に活動場面に応じて巧みに使い分けていくと

いう専有的学習を行うことで、自己制御的に環境に適応を果たすことを目指すこと、また、認知的不一致や葛藤などゆえに、習得的学習と専有的学習は常にお互いを喚起し、共時的・表裏一体的な存在であることが示唆された。そして、そのような相互行為の中で自分と相手が共に変化していることが示唆され、両者の新たな意味を創造するという適応の積極的な側面が浮き彫りにされた。

第7章では、本研究に関する全体的な考察を行った上で、留学生の異文化適応にかかわる社会文化的相互行為のプロセス・モデルの作成を試みた。そして、本研究において見出された知見と提案されたプロセス・モデルに基づき、社会文化的相互行為過程としての異文化適応の本質について吟味が行われた。その結果、異文化適応は文化学習・精神発達の過程であること、異文化適応には常に習得的学習と専有的学習の両側面が共時的・表裏一体的に存在すること、学習・発達過程にかかわる個人と他者がともに変化していること、学習・発達過程には認知不一致などの葛藤や軋轢が存在するがゆえに行為主体が常に新たな共通な意味を生成する、といった異文化適応の特性と所産が示唆された。